

# 2022年3月期第2四半期連結決算 セグメント別損益及び貸借対照表説明

2021年11月19日

常務執行役員 坂本 透

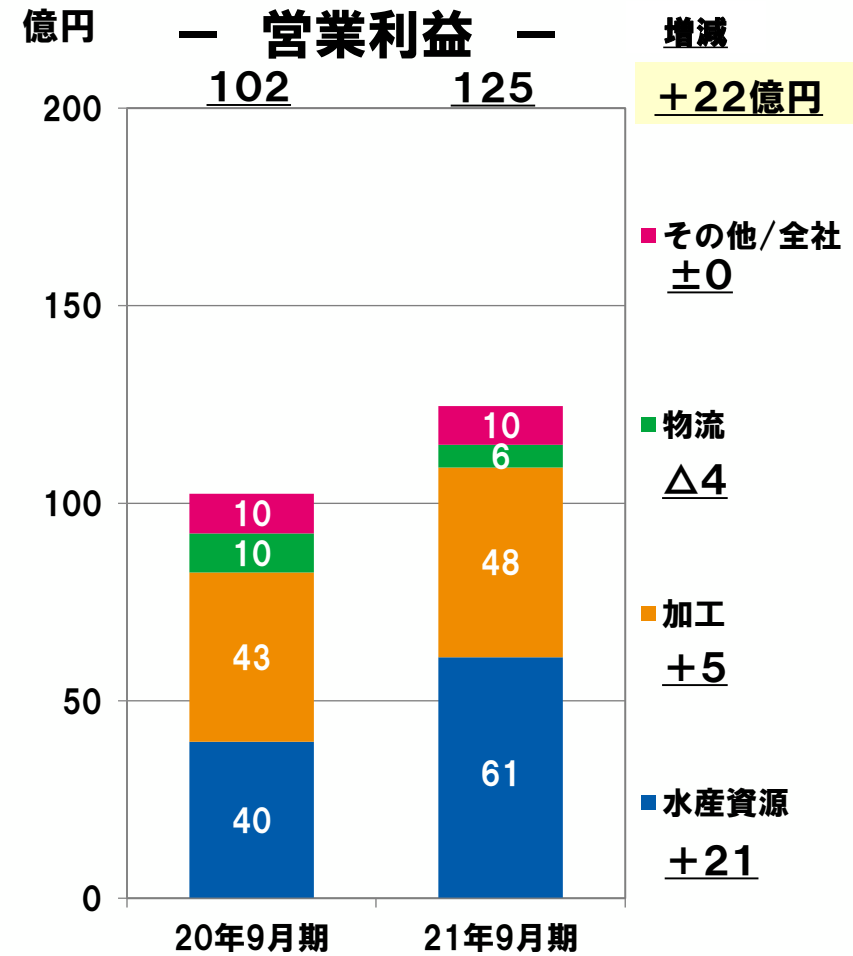
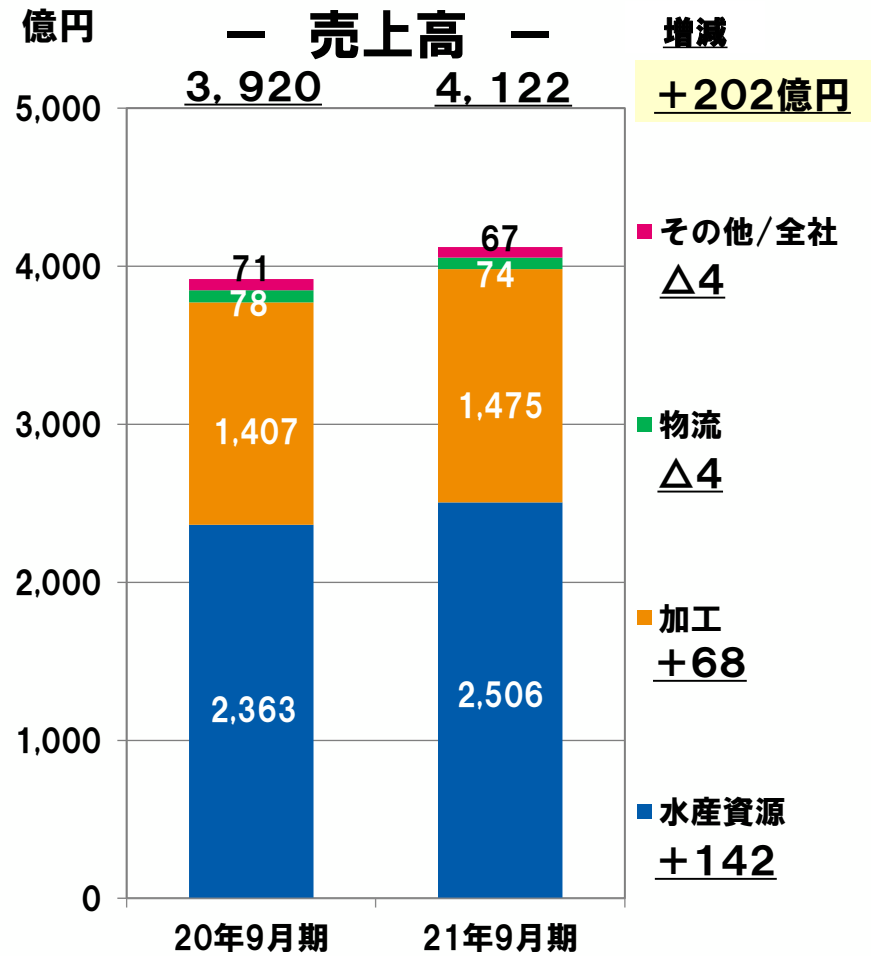


# 1. 連結損益計算書

(単位:億円)

	21年9月期	20年9月期	増減
売上高(収益認識基準適用後)	4,122	3,920	202
売上原価	3,521	3,361	159
売上総利益	601	559	43
販売費・一般管理費	477	456	21
営業利益	125	102	22
営業外収益	30	28	3
営業外費用	17	12	5
経常利益	139	118	20
特別利益	4	0	4
特別損失	8	43	△ 35
税金等調整前四半期純利益	135	76	59
法人税等	29	22	7
非支配株主に帰属する四半期純利益	12	18	△ 7
親会社株主に帰属する四半期純利益	94	36	59

## 2. セグメント別 売上高／営業利益



「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。また、当該会計基準等の適用については、原則として遡及適用されるため、当該会計基準等を遡って適用した後の数値で前年同四半期連結累計期間及び前連結会計年度との比較・分析を行っております。

## 3-①. 水産資源セグメント

(単位：億円)

セグメント	ユニット	売上高 (収益認識適用後)			営業利益		
		21年9月期	20年9月期	増減	21年9月期	20年9月期	増減
水産資源	漁業	134	149	△ 15	△ 6	8	△ 14
	養殖	68	52	16	△ 4	△ 9	5
	水産商事	749	709	40	26	14	12
	荷受	848	799	50	3	△ 6	9
	海外	707	655	52	42	33	9
セグメント小計		2,506	2,363	142	61	40	21

### 【事業概況】

**漁業:** ニュージーランドでのコンテナ不足による積み出し遅延、オーストラリアでの高収益商材であるメロの繰越在庫減少による販売減により、減収減益。

**養殖:** 外食・業務筋向けの販売不振が続いたものの、主要荷受及び量販店向けを中心としたマグロ販売数量増加とブリ相場の上昇により増収、赤字幅は縮小。

**水産商事:** 量販店、宅配、医療機関・高齢者施設向けの堅調な販売に加え、鮭・鱒・ホタテ・エビ類等の相場上昇により利益幅も改善し、増収増益。

**荷受:** 依然として業務筋向け主体の高級商材の販売は芳しくないものの、主に冷凍品の販売単価上昇及び利益率の改善により、増収増益。

**海外:** 北米...不採算の鮭事業撤退により減収増益／欧州...販売会社への追加出資による子会社化やアフターコロナ期待の販売増で増収増益／アジア...ベトナム加工会社買収により増収も、タイの生産工場がコロナ影響で稼働低下し減益。ユニット全体では増収増益。

## 3-②. 加工セグメント

(単位：億円)

セグメント	ユニット	売上高 (収益認識適用後)			営業利益		
		21年9月期	20年9月期	増減	21年9月期	20年9月期	増減
加工	家庭用冷凍食品	267	257	10	11	9	2
	家庭用加工食品	175	182	△7	14	16	△2
	業務用食品	564	529	35	9	3	7
	畜産	379	352	27	4	6	△2
	化成	90	86	4	9	9	△0
セグメント小計		1,475	1,407	68	48	43	5

### 【事業概況】

**家庭用冷凍食品**：巣ごもりや内食需要の継続により、米飯・食卓惣菜・グラタン類が伸長、主力の弁当品も学校再開により前年対比で上回り、増収増益。

**家庭用加工食品**：デザート...夏場の好天とメニュー拡大により増収増益／缶詰...前年の需要増に対する反動で減収減益／フィッシュソーセージ...巣ごもり需要の反動で価格競争激化し、販売が遅れて減収減益／ユニット全体としては減収減益

**業務用食品**：新型コロナウイルスの影響が依然として残るものの、量販店惣菜、コンビニエンスストア、生協等の宅配向けが堅調に推移し、増収増益。

**畜産**：欧州豚肉、輸入鶏肉、輸入牛肉の取扱いが増加したものの、北米豚肉の相場高騰による利益率低下から、増収減益。

**化成**：DHA・EPA及びコンドロイチンの販売が好調に推移し増収となったものの、フリーズドライ製品が前年の需要増に対する反動の影響が大きく、減益。

### 3-③. 物流セグメント

(単位：億円)

セグメント	ユニット	売上高 (収益認識適用後)			営業利益		
		21年9月期	20年9月期	増減	21年9月期	20年9月期	増減
物流	物流	74	78	△ 4	6	10	△ 4

#### 【事業概況】

新型コロナウイルスの影響が続くなか、水産品をはじめ畜産品や冷凍食品の集荷活動を行い収益の確保に努めたものの、在庫数量及び保管在庫数量が前年より減少。また、2021年4月の名古屋物流センター開業により減価償却費等が増加したため、減収減益。

## 4. 連結貸借対照表

\*2021年3月末の数値は、収益認識基準適用後の数値に組み替えております。

(単位:億円)

	21年9月末	21年3月末	増減		21年9月末	21年3月末	増減
流動資産	3,219	3,005	214	流動負債	2,207	2,140	67
現預金	263	316	△ 52	仕入債務	399	343	56
売上債権	1,182	1,026	155	短期借入金	1,359	1,359	△ 0
棚卸資産	1,675	1,566	109	その他	449	438	11
短期貸付金	3	3	0	固定負債	1,524	1,522	1
貸倒引当金	△ 4	△ 4	0	長期借入金	1,244	1,239	5
その他	100	99	2	その他	280	283	△ 3
				負債合計	3,730	3,662	68
固定資産	2,304	2,324	△ 20	株主資本	1,459	1,381	78
有形固定資産	1,433	1,479	△ 46	資本金	200	200	0
無形固定資産	221	199	22	剰余金	1,259	1,182	78
(内のれん)	86	79	7	自己株式	△ 1	△ 1	△ 0
投資その他資産	650	645	4	その他包括累計	78	44	34
				非支配株主持分	256	242	15
				純資産合計	1,793	1,667	126
資産合計	5,523	5,329	194	負債純資産合計	5,523	5,329	194

### 【資産の増加(194億円)】

季節要因による売上債権と棚卸資産の増加によるものです。  
有形固定資産は、不動産売却等により減少しました。

### 【負債の増加(68億円)】

主に、販売増加に伴う仕入債務の増加によるものです。

### 【ご参考】

自己資本	1,537	1,425	112
自己資本比率	27.8%	26.7%	1.1

## 5. 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:億円)

	21年9月期	20年9月期	増減	主な内容
営業活動によるキャッシュ・フロー	60	66	△7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・税金等調整前四半期純利益 (+135)</li> <li>・減価償却費 (+79)</li> <li>・売上債権の増減&lt;増加:△&gt; (△130)</li> <li>・棚卸資産の増減&lt;増加:△&gt; (△70)</li> <li>・仕入債務の増減&lt;減少:△&gt; (+40)</li> <li>・法人税等の支払額 (△11)</li> </ul>
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 69	△ 136	67	<ul style="list-style-type: none"> <li>・有形固定資産の取得による支出 (△82)</li> <li>・有形固定資産の売却による収入 (+24)</li> </ul>
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 53	57	△111	<ul style="list-style-type: none"> <li>・短期借入金の増減&lt;減少:△&gt; (△30)</li> <li>・長期借入れによる収入 (+155)</li> <li>・長期借入金の返済による支出 (△142)</li> </ul>
現金・現金同等物の期末残高	259	203	57	—



# 参考資料

▼2022年3月期 第2四半期 セグメント別実績

(単位：億円)

	売上高					営業利益				
	21年9月期	20年9月期	増減	年間計画	計画比	21年9月期	20年9月期	増減	年間計画	計画比
水産資源セグメント	2,506	2,363	142	4,991	50%	61	40	21	83	73%
加工セグメント	1,475	1,407	68	2,922	50%	48	43	5	94	51%
物流セグメント	74	78	△ 4	165	45%	6	10	△ 4	18	33%
その他	67	71	△ 4	122	55%	7	7	△ 1	5	140%
全社	0	0	0	-	-	3	3	0	0	-
合計	4,122	3,920	202	8,200	50%	125	102	22	200	63%

# お問い合わせ先

マルハニチロ株式会社 経営企画部 IRグループ  
メール：[ir-info@maruha-nichiro.co.jp](mailto:ir-info@maruha-nichiro.co.jp)

**Thank You**



# MARUHA NICHIRO

海といのちの未来をつくる

当資料に記載されております計画や見通し、戦略など歴史的事実でないものは将来の業績に関する見通しであり、これらは現時点で入手できる情報から得られた判断に基づいております。実際の業績は様々な重要要素により、これらの見通しとは異なる結果をもたらしうることをご承知おきください。また、本資料の著作権やその他書類にかかる一切の権利はマルハニチロ株式会社に属します。